

**製品名: CD19 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08256**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:50-1:200
分子量	61kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CD19
別名	CD19; B-lymphocyte antigen CD19; B-lymphocyte surface antigen B4; Differentiation antigen CD19; T-cell surface antigen Leu-12; CD19
遺伝子 ID	930.0
SwissProt ID	P15391
免疫原	B リンパ球抗原 CD19 由来の合成ペプチド（アミノ酸範囲: 191-240）

**背景**

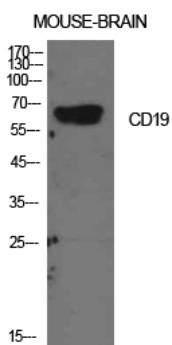
リンパ球は、様々な濃度の異なる抗原に反応して増殖・分化します。B 細胞が様々な抗原に対して特異的かつ高感度に反応する能力

は、低親和性抗原受容体を利用することで実現されます。この遺伝子は、Bリンパ球の抗原受容体と会合し、抗原受容体依存性刺激の閾値を低下させる細胞表面分子をコードしています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：CD19の欠陥は低ガンマグロブリン血症の原因となる[MIM:107265]。機能：Bリンパ球の抗原受容体と会合し、抗原受容体依存性刺激の閾値を低下させる。、オンライン情報：CD19変異データベース、PTM：DNA損傷（おそらくATMまたはATRによる）により、セリンおよびスレオニンがリン酸化されます。B細胞の活性化に伴いチロシンがリン酸化される。、類似性：2つのIg様C2型（免疫グロブリン様）ドメインを含む。、サブユニット：成熟B細胞膜においてCD21、CD81、CD225と複合体を形成する。VAVと相互作用する。チロシン348および/またはチロシン378がリン酸化されるとGRB2およびSOSと相互作用する。チロシン409がリン酸化されるとPLCG2と相互作用する。、

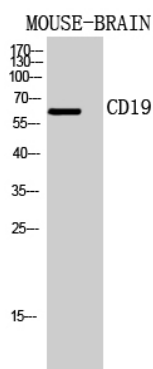
## 研究分野

造血細胞系統;B細胞抗原;原発性免疫不全症;

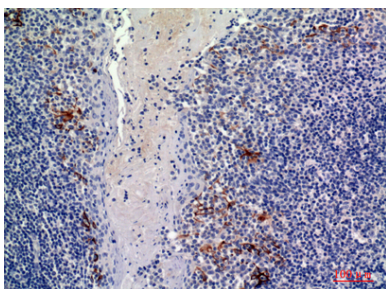
## 画像データ



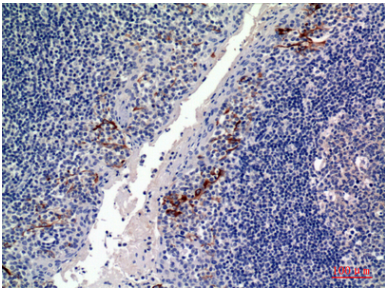
CD19ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット解析。抗体は1:2000に希釈した。二次抗体は1:20000に希釈した。



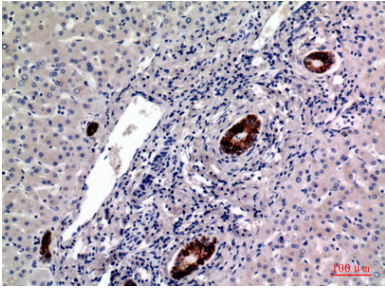
1: 2000に希釈したCD19ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1: 20000に希釈した。



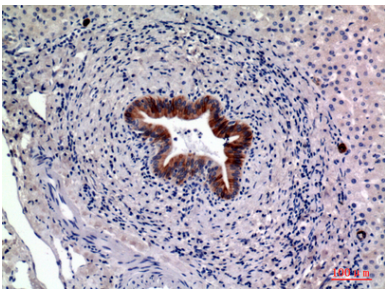
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



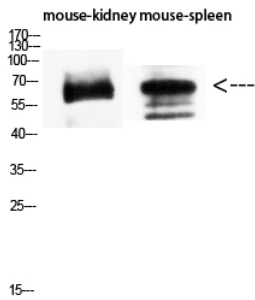
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



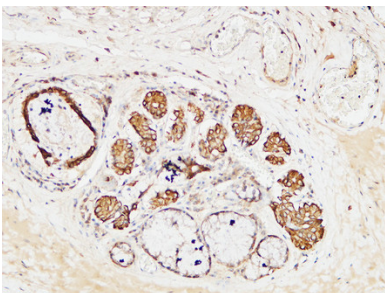
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



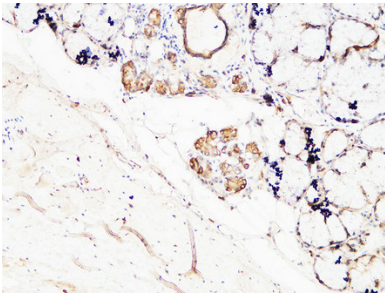
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



1:1500 に希釈した CD19 ポリクローナル抗体を用いたマウス腎臓およびマウス脾臓のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈（4°、一晚）。2、高圧高温 EDTA（pH8.0）を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30分）。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。